

交差点 107号

発行：札幌市交通安全運動推進委員会
令和6年12月

見つけてね ピカピカぼくのはんしゃざい

こども部門 文部科学大臣賞

ちょっと待て 車のかげから もう1台

こども部門 警察庁長官賞

「令和6年使用交通安全年間スローガン」（全日本交通安全協会・毎日新聞社）より

冬の交通安全について保護者の皆さまへ

12月を迎え、子どもたちが楽しみにしている冬休みが間もなくやってきます。

雪遊び、冬のスポーツ、ご家族での外出など屋外での活動機会も多くなると思いますが、降雪や気温の低下による路面の凍結などにより、冬ならではの交通事故の危険性が高まる時期でもあります。

令和5年の札幌市内における中学生以下の子どもの交通事故負傷者数は236人。

冬の12月から2月には61人が交通事故によりケガをしています。

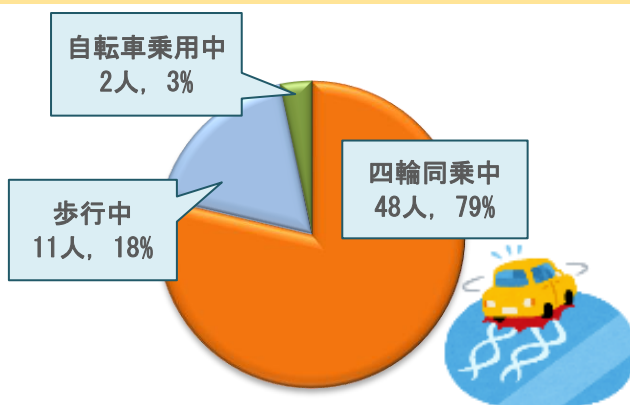
思わぬ事故に巻き込まれることなく、有意義な冬休みを過ごせるよう、ご家族で交通安全について話し合い、子どもたちの交通安全意識を高めていただきますようお願いいたします。

札幌市内における中学生以下の交通事故実態

令和5年1月～12月の死者数	0人（前年比：-1人）
負傷者数	236人（前年比：+52人）

冬期間（令和5年12月～令和6年2月）の死者数	0人（前年比：±0人）
負傷者数	61人（前年比：+32人）

中学生以下の状態別負傷者数（令和5年12月～令和6年2月）



冬の交通事故を状態別で見ると、四輪同乗中の負傷者数が48人と、全体の約8割を占めました。冬道は路面の凍結や圧雪など、タイヤがスリップしやすい状況となります。ドライバーはスピードダウンを徹底して安全運転に努めましょう。シートベルトは全席着用を徹底しましょう。

また、夜間や薄暮時間帯は、ドライバーが歩行者を発見しにくい状況になります。歩行中の交通事故を防ぐため、持ち物に夜光反射を身につけるなど目立たせる工夫をしましょう。

※グラフ中の%は小数点以下を四捨五入しています。

交通安全指導のポイント

□ 道路わきの雪山に登らない

誤って道路に滑り落ちる危険があります。道路わきで遊ばないよう、また、雪山の陰から飛び出さないよう注意しましょう。

□ 時間に余裕をもって行動する

冬道では転倒の可能性も高くなります。車は急に止まることができません。焦らず左右をよく見て、必ず横断歩道を渡るように指導しましょう。

□ 夜光反射材や、目立つ色の服を着用する

冬期間は暗くなるのが早いので、ドライバーから子どもが見えやすくなるよう、夜光反射材を身に付けさせましょう。また、明るい色の服装、雪の中でも目立つ色の服装を選びましょう。

□ 自転車走行は危険！

冬道は凍結や積雪によりハンドルが取られやすく、さらに道幅も狭くなっているため大変危険です。冬道では自転車を利用しないように指導しましょう。

交通事故にあわないために 4つのやくそくを守りましょう！

道路をわたる前



凍結路面で車が滑り、飛び出してくることがあるので**注意！**

車が来ないか



雪山で見通しが悪くなるので**注意！**

車の音を



雪が音を吸収して聞こえにくくなるので**注意！**

車が通り過ぎるまで



車は急に止まれません。安全をしっかり**確認！**